

# 多様な価値観に触れ、 国際平和の懸け橋となる

## 創価大学

### プリシラ クアンシマ シナイパ アディシン

Priscilla Quansima Synaepa-Addison

国際平和学研究科  
国際平和学専攻 修士課程 2年  
ガーナ出身



私が在籍する創価大学の国際平和学研究科(SIPS)は、スーパーグローバル大学創成支援の一環として2018年に開設された大学院の新しい研究科です。外国人留学生が多く在籍し、2019年度の新入生28名の出身は15カ国・地域に及びます。8名の教授陣もそれぞれ異なる国の出身です。

英語を教育言語としており、国際色豊かな環境の中で、「国際関係論」と「平和学」といった、研究科の2つのコアを軸とした「国際平和学」を対象に学びを深めています。グローバル社会の対立の原因や解決方法などについて、複眼的な視点から捉え直し、総合的な視点を養う点がこの学科の特徴。地球規模の問題を解決すべく、世界市民として視野を広げながら、日々勉学に励んでいます。

私が初めて日本を訪れたのは2016年。ガーナ大学の大学院生だった頃、学科長の選出を受け、交換留学生として創価大学で学ぶ機会を得ました。創価大学では、さまざまなバックグラウンドを持つ留学生が学んでいます。私が居住していた国際学生寮では日本人学生と生活とともにしており、寮で過ごす日常生活のいろいろな場面で多様性を感じることができました。また、熱意ある学生が多く、いつか世界に影響を与えたいという私の情熱を熱心に聞いてくれたのも、再来日してSIPSで学ぶよう私を勇気づけてくれたのも、そこで出会った仲間でした。



国際平和学研究科の1期・2期生

私は「平和・世界市民論」、「アフリカにおける国家建設」、「内戦と和平プロセス」などの授業を履修しており、特にサハラ以南のアフリカにおける若者の失業を減らすための、デジタル技術と多国間組織の役割について研究しています。この研究は、持続可能な開発目標のSDG8、ディーセント・ワークと経済成長の達成にもつながるものです。

SIPSの授業はディスカッションがベース。やりがいと学びがたくさんあり、学修に没頭できています。異なる国や文化圏から来ている学生同士でアイデアを共有することで、地球規模の問題に関心をもち、革新的で持続可能な解決策を見つけて

いくことに自信を持つことができました。ほかにも、創価大学主催の第7回アフリカ開発会議(TICAD7)のポストイベントなどの国際会議での発表をはじめとしたさまざまな機会があり、日々多くの刺激を受けています。

日本での生活は困難なこともありますが、職員の方々からのアドバイスや臨機応変な対応など、学業面以外でも充実したサポート制度が整っています。また、教授陣も真摯に相談に乗ってくださり、学生を第一に考えてくれるため、とても心強い存在です。平和で持続可能な世界へと国際社会を牽引できる人材になれるよう、これからも学びを深めていきます。



ラーニングcommonsSPACEも積極的に活用